

オートバイ産業を襲った伊勢湾台風の悲劇

1956(昭和31)年、ミシン部品を造っていた(株)ブラザー精密工業(当時:碧海郡知立町)が小型エンジンのバイク＝モペットバイクブームに合わせて開発したのが排気量70cc、出力2.7馬力の空冷単気筒2サイクルガソリンエンジン搭載のマイダーリングである。

ヨーロピアンタイプでホワイトリボンタイヤを履いた。最高速度60km、変速機2段グリップチェンジ。燃料タンクをセンターフレームに入れたのが特徴である。

マイダーリングは300台を生産した。開発のきっかけは安井友七社長がオートバイを好きだったからだと言われている。



マイダーリング J-70B (1956-1959)
ブラザー精密工業製

名古屋市港区の工場ではリヤエンジン、リヤドライブのタイプや2気筒、排気量125cc、2サイクルエンジン搭載の本格的オートバイを完成し、オートバイ産業への進出を目指していた。1959年、その量産直前に同社港工場は伊勢湾台風により壊滅した。

名古屋市瑞穂区のブラザー工業本社近くの仙石製作所もサイクロンペットの生産を同時期に始めていた。同社は刈トヨモータース(刈谷市)へエンジンなど部品供給を行っていたが、トヨモータース衰退後に自社で完成車を発売した。

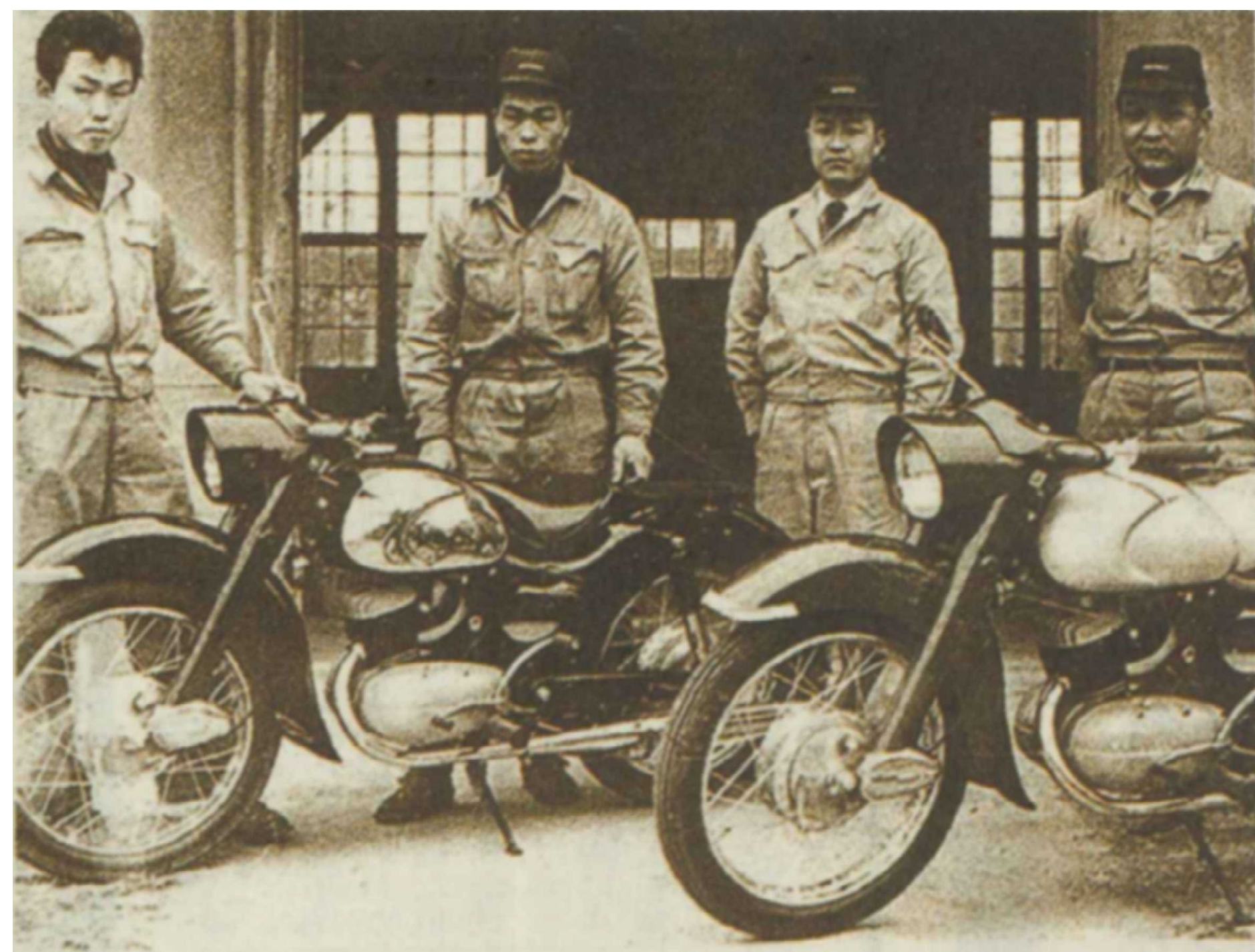
1950年代、国内全体では200社以上のオートバイメーカーがあったと思われるが、名古屋地区では70社を超えるメーカーが乱立していた。名古屋地区では、エンジン、車体他、主要部品を購入して組立、完成車を自社製ブランドで発売するアッセンブリメーカーが大半を占めた。

仙石製作所のサイクロンペットは東南アジアにも輸出していた。1959(昭和34)年9月26日、10台を梱包して明日九州方面に出荷しようとして準備しようとしていた矢先、伊勢湾台風(15号台風)が猛威を震った。

ブラザー、仙石製作所ばかりでなく、メーカーと関連部品会社の大半は市南部の地帯に工場があったため、台風の浸水被害で壊滅的な打撃を負った。市場は後発のスズキ、ヤマハが性能とスタイルで優位となり販売を拡大、1957(昭和32)年にはモペットバイクの分野を制覇したホンダスーパーカブが発売されており、すでに名古屋のメーカーは苦境に立たされていた。そして、伊勢湾台風の打撃を機に次々と倒産、廃業、転業を決意したのである。



仙石製作所のサイクロンペット



ブラザー精密工業の名古屋市港区の港工場
1959年、伊勢湾台風により壊滅した。



伊勢湾台風で壊滅した名古屋市南区笠寺のホダカ工場
浸水は熱田区、瑞穂区、昭和区まで及んだ